



きたあきつ



学校教育目標 学び合う子 やさしく かしこく たくましく

所沢市立北秋津小学校 校長だより 8・9月号 令和5年8月30日

2学期も、「ときどき失敗もしよう」

校長 濱川 英二

正門に入った木の辺りで、法師蝉の声を聞きました。歳時記では秋の季語ですが、まだまだ厳しい残暑が続きそうです。2学期が始まりました。

1学期の終業式で、「皆さん小学校に入ってから今まで、どれくらい歩きましたか?」と子供たちに聞きました。小学校に入ってから歩いた距離を全部足して、所沢市をスタートとすると、どこまで歩いて行ったことになるでしょうか。例えば、3年生では3年間として、①新宿②奈良県(南陵中学校の修学旅行先)③もっと遠くの沖縄県・・・どれだと思いますか。子供たちは②に多く手が挙がりましたが、正解は、③沖縄県です。学校へ来て、学校の中でも歩いて、放課後や休日にも遊びに出かけて(1日に3km歩くとすると)、合計で約3300km。3年間で沖縄まで歩いた!ことになるのです。実際は、所沢から沖縄までは1600kmですので、もっと、沖縄に行って、また所沢に戻ってこられるくらいを歩いたことになります。参考に、6年生は、その3年生の倍として6600km、これは所沢から、沖縄を過ぎて、外国に出て、なんとインドまで歩いたことになります。

(7月、林間学校でも歩きました!→)



「自信をもとう」と話しました。だって、インドまで歩いたんだから。いつも通りに、続けること。あきらめずに続けると夢は叶うと、7月の全校特別公開授業「ドラマジック」のトミーさんも言っていました。特別に何かを頑張ったことも素晴らしいのですが、同じように、ひとつひとつ、自分では気がついていないかもしれないけれど、頑張ってきたことが子供たちには必ずあります。歩いたこと、学校で勉強したこと、友達と遊んだこと、友達と一緒に成長したこと、多くのことはふだんの生活の中にあります。(『希望の教室』(金森俊朗)「ぼくたちはこれまでに何キロ、歩き、食べたか」を参考にしました。)

さて、このような子供たちの日常を、保護者や地域の皆さまが見守ってくださっています。「幸せは日常の中にある」と言いますが、そのようなスタートにすべての子供たちが立ち、学校では幸せな子供時代を過ごせるようにしたい、そう願います。皆さまには、子供たちに寄り添って、それこそインドまで一緒に歩いていただいているのだ、と言ってよいかもしれません。本当にありがとうございます。励ましや振り返りの声かけが、子供の自律につながります。

2学期は、運動会や音楽会など学校行事が多くあります。「**ちょうどんしよう、ときどきしっぱいもしよう、そこからまなんでせいちょうどんしよう**」を続けます。皆さまの温かい見守りとご協力を願いいたします。